

(様式 1)

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 12 月 8 日									
法人名	有限会社メディアワールド									
代表者(理事長)名	取締役 奥井 あさ子									
介護保険事業所番号	2	7	7	5	0	0	4	9	9	3
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ × 小規模多機能型居宅介護事業所									
	・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ × 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホームそよかぜ									
事業所所在地	〒577-0826大阪府東大阪市大蓮北一丁目9番26号 3階									
記入担当者職・氏名	(職) 計画作成 担当者 (氏名) 岡本 雅之									
連絡先電話番号	050-3900-4309									

自己評価項目構成

・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	そよかぜの理念 1. 人間中心のケアを心がけます 2. 利用者の思いを知る努力をします 3. 利用者の残存能力を守ります 4. 援助では、バイスティックの7原則に従います。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や研修などを通じて事業の目的や運営の方針が記載された書面を配布し、職員に周知徹底を図っている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者やその家族等には重要事項説明書に添付し理解を得、地域の人々には認知症に対する理をまずしていただける様玄関掲示を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は、隣近所の人に挨拶を欠かさず、気軽に立ち寄ってもらえる様にボランティアによるバイオリンコンサート等に招待し友好を深めている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、敬老会、選挙などに出席し、地元の人々と交流することに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者への支援を基盤に、併設通所介護事業所と共同で、地域の高齢者等の立ち寄れるデイルームを設置している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価及び外部評価を活かして職員ミーティング、研修の充実を行い、介護サービス計画のモニタリングを月毎に行い利用者家族及び福祉事業所へ報告している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、地域交流事業やホーム内クラブ制度などの取り組みにも活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者主催の地域別ケア会議にも必ず参加し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年末より福祉事務所担当CW等関係者と話し合い、1名が成年後見制度を利用した。現在新たに3名が地域権利擁護事業の申し込み・面接を済ませた所である。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、研修、社内研修を通じて高齢者虐待防止関連法や高齢者虐待防止についての知識理解を深め虐待防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に重要事項説明書にそよかぜ理念を添付し理解を得、十分な説明を行い納得を図っている。解約時にも要介護者及び家族の希望に添う様援助している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者との個別コミュニケーションや家族会を設け、又単身の利用者に関しては権利擁護、市福祉事業C Wの訪問の機会に意見を伺い、それを運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月末に加えて適宜、事業所及び重度認知症デイケア、内科、歯科、眼科、婦人科、整形外科より説明も合わせて、個々に報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設けると共に、面会の折には管理者や職員ならびに担当医師等と面談する時間を取っていただき、意見等を伺い、運営に反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング及び運営会議（オブザーバーとして職員代表が参加）において意見提案を募り、運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者、家族に代わって、代理権委任による銀行、役所手続きや、家族に代わり利用者の通院付添にも対応できる様勤務調整に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みの支援者による支援を受けられる様に、異動や離職を必要最小限に抑える努力のみならず、利用者の同時移動も可能としダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>有資格者には法人外研修を、全職員に法人内研修を、又働きながらトレーニングし、更に上の資格を収得出来る様に進め勤務調整を行っている。</p>	<p>資格取得の為に資金援助を受けられる制度を設けている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や職員が地域ケア会議や介護福祉研修に出席し、同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作り、相互訪問、勉強会等の活動を通じ質の向上に努める。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者や職員のストレスを軽減するために異業種研修の企画や休憩室の設置など環境づくりに取り組んでいる。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者や職員個々の努力、実績、勤務状況をミーティング等で評価し、各自が個性を生かし、向上心を持って働ける様に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまでに本人自身から困っていること不安なこと求めていること等を聞く及び見極める機会を作り、受けとめる努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまで家族等から困っていること不安なこと求めていることを聴く及び見極める機会を作り、受けとめる努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受け、本人家族と面談した上で必要としている支援の見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用する為に、必ず見学に来て場の雰囲気を感じていただき、家族等と相談しながらサービス利用を開始していただく。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は介護される一方ではなくユニットを構成する大切な一員として一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、他の利用者・職員に思い思われる関係となっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は支援される一方ではなく、面会や家族会を通して、利用者のみならず他利用者・職員と喜怒哀楽を共にし支え支え合う関係となっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、関係の修復又はより良い関係が築いていける様に家族に理解を呼びかけ連絡を取っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の折に馴染みの場所に立ち寄ったり、友人の面会を歓迎し、又連絡を取り支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同志の関係を把握し、孤立せずに利用者同士が互いを認め関わり合い、支え合える様に、理解を助け関係を支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても利用者や家族とつき合い、関係を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思い暮らし方の希望、意向の把握に努めている、支援している。困難な場合は本人本位に検討している。	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用経過等の把握に努めている。	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態有する力等の状況を総合的に把握する様に努め、職員で話し合い介護計画に活かしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について担当者会議を開き会議が持ていない場合には各担当者に意見照会を行い、それを反映した計画作成をしている。	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画期間を最長3ヶ月としているが見直す前に新たな計画再編を必要とする変化が生じた場合は会議又照会を行い、現状に即した計画作成をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践診療上の指示を個別記録に記入し、又申し送りノートにて情報を共有しながら実践や計画見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況やその活動性、社会性に応じて併設施設通所介護を訪問し、又は設備を利用したイベントなどの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の入院・無断離設で消防警察の協力を得、又ボランティア・文化・教育機関等と協力しながら文化・教育行事等を行うなど、運営している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネやサービス事業者と活かし合い、協力して利用者を支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の意向や必要性に応じて、権利擁護や地域包括支援センターと協働して総合的かつ長期的なケアマネジメント等を考え支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、医療制度に乗って適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>精神科専門医や認知症に詳しい内科医師と関係を築きながら、職員が相談したり、症状に関する診断・治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>職員・かかりつけ重度認知症デイケア・看護師・かかりつけ内科看護師と相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した時に安心して過ごせる様に欠かさず面会し、又、容態が落ち着けば早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や、かかりつけ医と担当医の面談を設定し、ホーム内で在宅診療に切替等行う。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方についてはかかりつけ医・本人・家族の意向や希望を相談し、適切な医療が受けられる様全員で方針を共有している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるため、かかりつけ医の指導の下に支援に取り組んでいる。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者が自宅や転設・入院する際、家族及び本人に関するケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、介護サマリーの交付を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの利用者とその家族に対し自尊感情やプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者本人の思いや希望が表出できるように働きかけたり、理解力に合わせた説明を行い、自分で判断、納得しながら暮らせるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の決りや都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切に、どうか希望に添えるよう適切な支援をしている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように誉め、支援し、利用者の体調が許すかぎり本人の望む理容・美容店に行けるよう支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、行事食や一人ひとりの好みや力（皮むきができる人が居る）を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が好む嗜好品を一人ひとりの状況に合わせて楽しめる量を守り、危険を回避する為の人員配置、目配りなど体制を整えて支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗やおむつの使用を減らす様一人ひとりに合わせてトイレ誘導を行う等気持ちよい排泄を支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	機械浴ではなく職員2人組で介助に当たる為動きやすく気温の高い午後早くに限られてしまうが、介助、見守り浴では希望・タイミングに合わせて支援している。		1週間に3回以上、希望があれば毎日でも入浴を楽しんでいただける様、介助用具を注文中。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じてカーペット敷の居間に畳を入れ布団で寝起きしい草カーペットに小机、座イスでくるるげる様部屋をしつらえさせていたっている利用者もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせる様に一人ひとりの生活歴や残存能力を活かし洗濯物のしわのばし、畳む、食卓をふく、下膳など共同の場で力を発揮していただき、お礼を言う日々である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、家族と相談を繰返しながら、お金を所持したり使える様支援している。		金銭管理能力がなくなっても、共に買い物に出かけて自分の日用品、おやつなどを買うことが出来る様支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごさず1日1～2回は外気浴に出る様にしている。一人ひとりの希望能力に応じて散歩へ出かける事も支援する。		同上
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたいが普段は行けないクラシックコンサートに個別で出かけたり、他の利用者とバイキングに出かけたり、家族と出かけられる機会を支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	料金を気にせず利用者自ら電話できる様IP - phoneを設置し、手紙のやり取りが出来る様切手購入ポスティングを快く頼まれている等支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、本人馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問できる様歓迎し、居室や居間でゆっくり過ごしていただく。必要に応じて家族室(宿泊可)も提供。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが外傷を気にした家族からの申出で安全ベルト装着の際、念書いただいた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者のプライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在や様子を把握し、利用者の安全や困った状態に長く在らない様配慮している。		日中 居室で過ごす利用者は1時間毎に様子を伺い、要事レク手伝い作業に誘う。夜間は3時間毎に様子を伺い、夜間徘徊、尿便失禁、脱衣に対応している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を一律に全く使用しないのではなく、手作業道具としての針やはさみは使用し、使用後は数量間違いなく持ち主が保管する様になっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ユニットに物を盗って隠す利用者が居り、薬は服用又は外出時には共同の場には出さない。たばこは喫煙場所で吸う。行方不明者捜索ルールなど事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時に備えて看護師、かかりつけ医より応急手当や初期対応の訓練を行い、O2吸入などの機械取扱についても研修している。		新職員研修期間でもあり、今後も定期的に行っていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行い、利用者が安全に避難出来る様に取り組む、地域の人々にも働きかけている。(市、自治会としては施設は施設でという方針を発表している。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、挫折感のない対応策を話し合っているが、家族の希望で車イスに安全ベルトを付けた事もある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル測定のみならず体調の変化、異変の発見に努め、速やかに情報を共有し要時看護師、かかりつけ医に報告して指示を得るなど、対応は素早い。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はかかりつけ薬局から薬剤情報を共有し、利用者一人ひとりが使用している薬について理解し、服薬支援と状態変化の確認に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘予防の為、繊維の多い嚥下に支障のない飲食物を工夫し、午前午後の体操や機能訓練、身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週1回は訪問歯科の指導を受けながら口腔内、義歯の清潔を保つ為歯磨き促し、介助等の支援を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、又、治療食として機能出来るよう、献立、調理、盛り付け支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防(手洗い、汚物処理及びマスク手袋、手洗、うがい励行)を研修し、インフルエンザ予防接種も全員済ませている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防(台所、調理用具等の衛生管理、マスクエプロン、手洗)を研修し、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設が親しみ易く安心して出入り出来る様に、玄関間口には緑を配し(東大阪市みどりの計画にも参画)、地域「あいガード」の旗を上げベンチを置き通りがかりの人も休憩していかれる空間をとっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者にとって不快な音や光がない様配慮し、居間には落ち着ける様和風に畳み、障子越しの灯りを用いている。又手作りの季節感の出る飾り付けなどを工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には独りになれたり、友人同士で思い思いに過ごせる様な居場所がある様設計となって居り、そう使用出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は木を多く使用してエアコンディショナーを目隠ししてあり、本人や家族の好み、使い慣れた物を活かし、居心地よく過ごせるものとなっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇及び窓よりの換気に努め、外気温と大差ない様配慮し、利用者の状況に応じてこまめな温度調節支援を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は共用空間に手すりを多く配慮し床はすべり難い素材を用い、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの理解力を活かして、理解し易い言葉かけをし混乱や失敗を防ぎ、ユニットの一員として安心して暮らせるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りで利用者が楽しんだり園芸などの活動が出来るスペースをもち、ベランダに危険なく出て洗濯物や活動を楽しめるすのこ張りにして支援している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
		一部 自分が車イスを利用して移動する姿を見せたくない等こだわりがあり、外出を拒む利用者が居る。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	H19.7月で2周年を迎え、まだまだこれから地域とつながり、親交を深めてゆきたい。
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

そよかぜは要介護1～5の心は自立しているが身体、行動は自立しているとは言えない利用者が多く、又母国語(中国語)しか理解できない利用者、外国籍の利用者など地域の特色を表す様なアットホームなホームです。家庭的雰囲気大切に、職員もジャージや制服は着ず、家族の一員として暮らしています。